

「日本の学童ほいく」誌紹介
日本の学童ほいく誌 2022年1月号より
講座 学童保育の基本問題再考
—言葉の理解をめぐって—
支援・指導とはなにか



—大人と子どもの関わり方を問う—
今回は、私たち支援員が日々使用している言葉「支援」や「指導」とはなにかについて紹介します。学童保育の場において、子どもと関わる専門職については従来から「指導員」という名称で呼ばれてきました。

厚生労働省令にもとづき、2015年に「放課後児童支援員認定資格研修事業」が設けられてからは「放課後児童支援員」の名称が使用されるようになりました。

本誌のなかにあるように、「指導」の用語は「教育」・「支援」の言葉は「福祉」で使用されてきました。



子ども主体の活動が起こる
子どもたちの成長・発達を保障するためには、「子どもの自由世界」を大切にし、それを広げていくことが求められます。「子どもの自由世界」の拡大のためには、①自主的な時間の活用、②主体的に選択できる活動、③自治的な活動の運営という視点が不可欠ですが、自主性・主体性・自治の前提として、なによりもまず、子どもの心が動き、その気になる・やる気が起きるといふことが必要でしょう。

(本文より抜粋)

「支援も指導」も大人側からの子どもへの働きかけを示した言葉です。

様々な呼び名がありますが、いずれにしても、学童保育にかかわる大人として、私たちは子どもたちの一番の理解者でありたいですね。

文責 編集委員 いっしー



事務局のブレイク Time

★子どもの権利条約を考える
このコーナーでは、増山 均先生（社会福祉学者）監修の、子どもも いっしょに たのしくよめる！国連子どもの権利条約と子どもの文化権（第31条）『ワニブタ絵本ガイドブック』を参考にしながら、「子どもの権利条約」のことをお伝えしていきたいと思ひます。 文責 事務局長 藤廣 麻弓

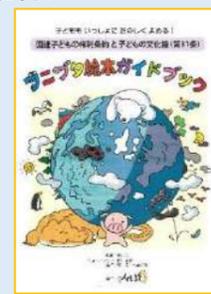
すべての条文が前提としなければならない「基本原則」(一般原則)
「生命および生存・発達の権利」第6条
成長・発達には子どもに特有の権利
子どもは生きてきた時間が短く、経験も少ないので、命や健康や幸せな生活が守られなければなりません。

成長・発達することが子ども特有の権利として保障されることがすべての条文を理解する土台とならなければなりません。

「意見を聞かれる権利(意見表明権)」第12条
子どものことは子どもに聞こう！

子どもの意見をちゃんと聞かなければ、子どもの最善の利益を実現することはできません。
子どもの権利条約で保障された権利、子どもの最善の利益を保障していくためには、子どもの気持ち・声・願い、子どもの視線・目線が反映されなければなりません。

『ワニブタ絵本ガイドブック』より抜粋



編集後記
2022年寅年がスタートしました。新学期が始まったものの新型コロナウイルス感染症の第6波に突入し、さらに不安でいっぱいな状況に。
寅年は「成長」や「始まり」の年になるそうです。

節分に恵方巻を食べ、1年の願かけをして新しい日常が始まる年になって欲しいと強く思います。来月号ではバス遠足や観劇の様子をお伝えしたいと思います。お楽しみに！



文責 編集委員 あゆ

てつなぎ発信

2022年1月発行 No.21



ふくし生協 直方市学童保育支援センター
〒822-0034 直方市山部 1419-8
発行責任者：センター長 森元 茂利
編集責任者：センター通信編集委員会

新年おめでとうございます



直方市学童保育支援センター
センター長 森元 茂利

保護者の皆様はじめ、学童保育事業に関わって頂いた直方市民の皆様には、大変残念な報告をしなければならなくなりました。これまで、7年間にわたって市内9校区16クラブの学童保育の運営に携わってまいりましたが、市の学童保育事業の公募により、株式会社明日葉(あしたば)が選定されました。2022年4月より3年間の委託となります。

ふくし生協は、営利を目的としない非営利協同の組織として支援員の働きやすい条件づくりを進め、そのことがひいては子どもたちへの豊かな放課後を保障することにつながると確信して取り組んできました。

さらに、子育てをする保護者のみなさんが安心して働けるためにも保護者会を大事に考え、「共同の子育て」を保護者のみなさんと進めてきたところで

学童保育事業は、長年にわたって保護者や支援員の努力によって制度の充実が図られてきました。その成果として「放課後児童クラブ運営指針」(2015年4月厚生労働省通知)が示され、児童福祉法をはじめ子育て支援制度としてようやく国の重要な施策となりつつあります。学童保育制度は、働く支援員の労働条件や施設条件など子どもたちの環境づくりもまだまだ不十分です。

運営事業者が代わっても、私たちふくし生協は、直方市の子育て制度が充実することを願い、地域の事業体(生協)として活動を進めます。7年間のご支援、ご協力に感謝し、ご挨拶とします。



へえ！そうだったのか！



◇ 節分とは…

「節分」とは、各季節の始まりの日「立春・立夏・立秋・立冬」の前日のことです。また、「季節を分ける」ことも意味しています。

立春の前日の「節分」の日は、豆まき等の行事が行われます。

今年の「節分」は2月3日(木)ですが、2月3日と決められているわけではありません。毎年「立春」の前日に行われています。

「節分」に「豆まき」が行われるようになったのは、室町時代。当時は豆ではなく、お米を撒いて病気などの厄を追い払っていたと言われていたそうです。元々「豆」は「魔を滅する」という意味の「魔滅」という漢字があてられることもあり、鬼を追い払うことができるとされていました。そのため、「豆まき」は、厄を追い払うために行われます。

◇ 恵方巻って？

恵方を向いて願いごとをしながら、無言で丸かぶりすると縁起が良いとされる太巻き寿司のことで、2022年の恵方は北北西やや北です。

そもそも、「節分」に「恵方巻」を食べる習慣はいつ始まったのでしょうか。

実は「恵方巻」の由来について、定説はないそうです。ひとは大正時代から戦後にかけての間、大阪を中心に関西で「節分」に行われていた行事。関西では「節分」に芸遊びをしながら商売繁盛をお祈りする際に、「丸かぶり寿司」や「太巻き寿司」を食べていたことが始まりとされています。もうひとつは、1973年頃。大阪海苔問屋協同組合が寿司店と手を組んで、節分に「太巻き寿司」を「恵方巻」として売り出したことが始まりとも言われています。その後、1998年に大手コンビニが海苔巻きを販売する際に、「恵方巻」として大々的にPRをした結果、全国に広まったそうです。

出典：2022年の恵方巻きの方角とは？正しい食べ方・由来・縁起の良い具まで紹介！ | Oggi.jp

あそび部会研修を終えて



あそび部会 部会長

11月16日に「直方市福智山ろく花公園」であそび部会の研修を行いました。

部会研修は野外で行う事が多く、毎回天候が気になりますが、この日は天候にも恵まれ暖かい日差しの中、また木々の紅葉が歓迎してくれるかのように迎えてくれました。

今回は「自然の中で感じるもの」をテーマに行いました。

宝物さがしでは、宝物リストをもとに、『とげとげしたもの』・『落ち葉一枚』・『だれかの食べたあと』・『木の実ひとつ』・『ぬけがらひとつ』・『音のするもの』・『においがするもの』・『おもしろいもの』を探します。

ひとりひとりが自分にとっての宝物をさがします。

参加した支援員方は童心に戻ったようになんだか素敵！

自然に解放された研修だが、研修とは言えないほど、のびのびと自然を楽しんでいるようでした。

ゲームは『コウモリとガ』というゲームをしました。コウモリ1匹、ガ2匹、壁10人ほどに分かれ、壁が手をつないで円になり、コウモリが「バット！」という、ガが「モス！」と答えます。声をたよりに目隠しをしたコウモリがガを追いかけ、壁がガを逃がさないようにする簡単なゲームです。

みんな真剣に取り組んでいました。あっという間の研修時間でした。

コロナ禍で対面の研修ではなかなか顔を合わす事が出来ず、あちらこちらから「久しぶり～元気だった」の声が聞こえ、再会を喜ぶ研修にもなった事と思います。

あそび部会の研修を通して学んだ、五感を満たす活動を子ども達のために活かして欲しいと思います。参加して下さった皆様に感謝しています。ありがとうございました。



コロナ禍でのおやつ選び



直方西学童クラブ 主任支援員

コロナ禍になって2年。何もかも怖がっていた当初のおやつは袋菓子のみ提供で、果物も出せずレンジでチン！も無くなった。もちろん手作りおやつもできず、子どもと一緒に準備もしなくなった。おやつ選びは楽になったが、なんとも味気ない。

衛生管理をしっかり行い、果物のカットやレンジでチン！での提供は出来るようになり、少しずつおやつ幅が広がってきた。それでも袋菓子だけより断然いい。

そんな時、「学童ほいく誌」11月号の平本福子氏（宮城学院女子大学 教授）の『学童保育における「おやつ」一直面する課題と求められる役割の両



面から一』を読み、コロナ禍で子どもたちの食体験が減っており、おやつ提供問題は、どの学童も厳しい状況で、同じ悩みを抱えていることを知った。

おやつを食べる主体者は子どもたち。子どもたちの意見を積極的におやつ選択に反映されてもいいのでは。おやつ選びを子どもたち自身がおこなったら、違った姿が見られるのではないかと・・・そう書かれていた。

あたりまえだが、その発想はなかった。衝撃だった！！

「何が食べたい？」と聞いたことはあったが、おやつメニューを子どもたちに考えてもらったことはなかった。どんな物を選ぶだろう。楽しいただろうな。

おやつ選びのポイント

- ① みんなが食べてくれそうなメニューにする。
- ② あまい・しょっぱいなどの味を組み合わせる。
- ③ 食べた時のボリュームを考える。
- ④ おやつは3品。
- ⑤ お皿に盛り付けた時のバランス。
- ⑥ 金額は一人60円×人数。
- ⑦ パン・くだもの・乳製品を(ヨーグルト・チーズ)每週入れ替える。



ある日のおやつ時間、「いつものおやつメニューは、先生たちで考えているよね。食べ合わせ(甘い・しょっぱい)・ボリューム・お皿に盛り付けた時の見た目・金額・1週間に必ず果物・乳製品・パンを入れたりして選んでいる。」という話を話した。

「へーそうやったん。」「本当やん！今日のおやつ、甘い・しょっぱいがあるね！」と、改めておやつに関心を寄せていたようだった。

「みんなにおやつメニューを考えて欲しいんだけど、やってくれる人！」の声掛けに、名乗りを上げてくれた3年生3人。

エフコープのカタログをめくり、「これ食べたい！」「甘い甘いばかりになるけど、違うのにしよう！」「これじゃ値段が高くなるけど、初めから考えなおそ！」「バナナって、いったい何本ついちよん？」と、電卓代わりにおもちゃのレジスターを使いながらメニューを書いては何度も書き直し、

初めての『子どもメニュー』は3日掛かって1日分をやっと決めていた。内容を確認すると、ベストな組み合わせに出来ていて驚いた。

そして、いつこのメニューが出るのかを楽しみにしていた『おやつ係さん』。

念願の『子どもメニュー』の日には、「おやつ係さんが選んだメニューなので、感想を伝えてあげて欲しい。」と伝えたところ、「おいしかったよ！」「ありがとう！」の声に、とても照れていた。

ずいぶん先まで、『おやつ係さん』の予約がある。まだ始めたばかりだが・・・

自分の好きな物ばかり買えないこと。みんなの事を考えておやつメニューを決めること。

給食や家庭での食事でも、食体験に繋がっていると思う。1日も早く、子どもたちと一緒に手作りおやつが出来る日を楽しみに、『子どもメニュー』の日を続けていきたいと思う。

